



環境変化と経営意思決定のための会計に関する研究

経営情報学部 経営学科

准教授 足立 洋（あだち ひろし）

連絡先 県立広島大学 広島キャンパス
Tel: 082-251-5178 (代表)



専門分野： 管理会計

キーワード： 管理会計、原価計算、マネジメント・コントロール

● 現在の研究について

私は、経営者が自らの周りで起こっていることを察知し、そのうえで必要な意思決定を行う仕組み全般について、研究を行っています。

自動車にスピードメーターやタコメーターがついているように、経営者も経験や勘に頼るのではなく、計器類から入手できる様々な経営情報に基づいて企業経営を適切に「運転」する必要があります。その経営情報の主要部分を担っているのが会計情報です（上総康行『ケースブック管理会計』より引用）。そこで私は、この会計情報を通じて、経営者が環境変化をどのように察知し、それにどのように対応するかをテーマとして、様々な企業にインタビュー調査を行っています。

私の研究テーマは具体的には2つに分かれています。1つは、経営者の迅速な意思決定についてです。企業では通常、期首に新年度の事業計画が作成されます。一方、顧客の志向や景気など、市場環境は常に変動しています。そのため、当初の想定通りに事業活動を行っても、計画通りの目標が達成できる保証はありません。そこで経営者は、この環境変化に対して何らかの対応をする必要があります。計画を修正することもあれば、それを円滑に実現するためにあらかじめ組織や担当者の業務分担に柔軟性を持たせておくこともあります。このように私は、会計を中心として、機敏な組織的対応の後ろ支えとなる経営管理の仕組みについて研究を進めています。

また、私の第2の研究テーマは、中小企業の会

計です。経営情報として重要な役割を果たす会計ですが、個人企業をはじめとした多くの中小企業では、時間面でも要員面でも、会計報告書の入念な作成に割くだけの余裕がない場合が多いです。それでは、中小企業では会計をどの程度やれば十分で、それはどのように行われるのでしょうか。この点が私の第2の研究テーマです。

● 今後進めていきたい研究について

最近では、前述の2つの研究テーマとは別に、企業の会計担当者の役割についての研究に着手しています。今や、会計担当者の役割は帳簿をつけるだけの作業から、経営者の求める情報を提供し、経営提言を行うアドバイザーへと変わりつつあります。会計担当者の役割のさらなる未来を追っていきたいと考えています。

● 地域・社会と連携して進めたい内容

より機敏に変化に対応できる組織づくりを目指されている企業の方々や、会計を用いた経営に取り組もうと考えておられる中小企業の方々とともに、会計を中心とした経営管理の仕組みのあり方について研究が進められればと考えております。

● これまでの連携実績

繊維、産業機器、IT、建設機械、建築材料・住宅設備機器、飲食等の業界の企業で調査・研究を行い、論文や事例報告を公刊してきました。著作物の一覧については以下のウェブサイトをご覧ください。

<https://hiris.pu-hiroshima.ac.jp/profile/ja.2ufIZui.GFSbwfRZNI-pYQ==.html>